

貝塚市新庁舎整備事業 市民ワークショップ

ニュースレター vol. 3



貝塚市では、庁舎が防災拠点として必要な機能を担い、また、市民の利便性を向上させるため、現在、「新庁舎整備事業」に取り組んでおり、新庁舎の考え方の基準となる「庁舎計画」策定にあたっての参考とさせていただくため、公募及び市内各種団体の推薦で選ばれた委員の皆様に参加いただく市民ワークショップ（全3回）を開催しました。（第1回及び第2回の開催概要については、ニュースレターvol.1 及び vol.2 をご覧ください。）

全
3
回

第1回
市民ワークショップ(開催済)
平成30年7月21日(土)
テーマ
「2060年の貝塚市での暮らしを考える」

第2回
市民ワークショップ(開催済)
平成30年8月25日(土)
テーマ
「市民と貝塚市役所の関係を考える」

第3回
市民ワークショップ(最終回)
平成30年9月22日(土)
テーマ
「新しい貝塚市役所への提案」

第3回市民ワークショップを開催しました！

9月22日(土曜日)に貝塚市新庁舎整備事業 第3回市民ワークショップ(最終回)を開催しました。最初にファシリテーターの若本准教授(大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻)から、話し合いに向けてのアドバイスがあり、第1回及び第2回と同様に3グループに分かれて意見交換をしました。

各グループでは、第1回及び第2回でフューチャーデザイン[※]の考え方をを用い、2060年の姿をイメージして話し合った意見を振り返りながら、自分たちの考えや提案内容を確認していただきました。その後、「提案コンセプト」を決め、これまでの成果を盛り込んだ「新しい貝塚市役所への提案」を発表していただきました。

※フューチャーデザイン：「現在世代の立場」、「将来世代の立場」それぞれの目線で、社会のために取り組んでおくべき施策を考える手法



各グループでの話し合いの様子

市民ワークショップからの提案

【Aグループ】

<HOTな庁舎> <市民がつかえる庁舎> <災害に強い庁舎>の3つの提案から、コンセプトは『**つながりで市民が元気になる庁舎**』に決まりました。例えば、市民が訪れたいくなる場所、集える場所があるなどの提案がありました。また、2060年の貝塚市のイメージは、地域コミュニティが復活し、市民全員が元気なまちになっているなどの意見がありました。

【Bグループ】

<全世代 自然と集まる「シティホール」> <やさしさも使い勝手も良い「ホーム」> <安心・安全・安定の魅力あふれる堅固な「オフィス」>の3つの提案から、コンセプトは、『**自慢したくなる庁舎**』に決まりました。例えば、貝塚の歴史・文化を展示し、情報発信するスペースなどの提案がありました。また、2060年の貝塚市のイメージは、子ども、高齢者、障害者、みんなに配慮されたまちになっているなどの意見がありました。

【Cグループ】

<人がやさしいハートフル庁舎> <連帯と交流が促進する庁舎> <命を守り、命が輝く庁舎>の3つの提案から、コンセプトは、『**貝塚の良さが輝くダイバーシティホール**』に決まりました。例えば、子ども連れにもやさしい、高齢者にもやさしい、ハンディキャップのある人にもやさしいなどの提案がありました。また、2060年の庁舎のイメージとしては、市民のサロンのような場所、待ち合わせの場所になっているなどの意見がありました。

Aグループ

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案 Aグループ

提案コンセプト

『**つながりで市民が元気になる庁舎**』

HOTな庁舎

市民がつかえる庁舎

災害に強い庁舎

<HOT（ほっと）な庁舎>

- 市民が訪れたいくなる場所、集える場所がある
- さまざまな用途に対応できる場所がある
 - ・貝塚自慢エリア
 - ・地産地消エリア
 - ・喫茶エリア
 - ・コミュニティエリア
 - ・市民が憩える広場
- 市民が集い活動していく場所を市民自らが運営していく

等

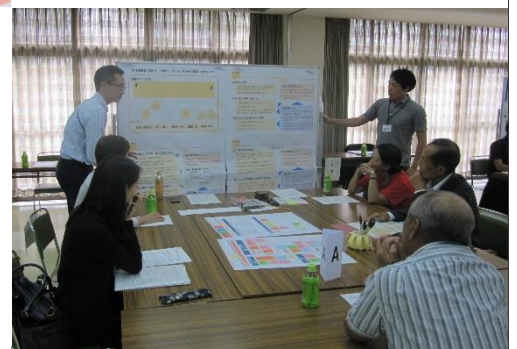
<市民がつかえる庁舎>

- 訪れやすい庁舎
- 役所の機能が集約されている
- 日常のあらゆる問題が解決する場所

<災害に強い庁舎>

- 災害に対する備えがある
- コミュニティの形成による災害に強いまちづくり

等



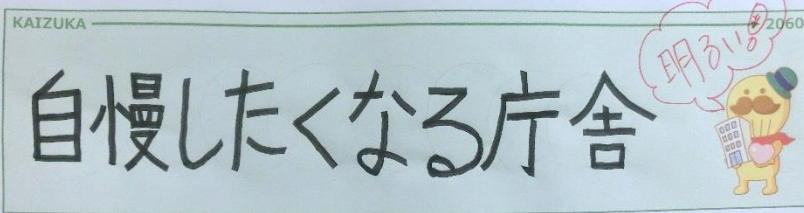
Bグループ

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案

Bグループ

【提案コンセプト】



提案1：全世代自然と集まる「シティホール」

提案2：やさしさも使い勝手も良い「ホーム」

提案3：安心・安全・安定の魅力あふれる堅固な「オフィス」



＜全世代 自然と集まる「シティホール」＞

- 子育て世代が気軽に訪れ、集まり、交流する場
- 市民活動の場をつくり、交流を支援する場
- 誰もが楽しく学び、貝塚への愛着を育てる場

＜やさしさも使い勝手も良い「ホーム」＞

- 誰でも使いやすい設備・機能
- わかりやすい表示案内、移動しやすい庁舎
- 誰でも利用できる公園のような広場 等

＜安心・安全・安定の魅力あふれる堅固な「オフィス」＞

- 防災拠点としての庁舎
- 平時は防災スペースを市民スペースとして利用
- 泉州地域の防災モデルとなる庁舎
- 民間オフィスのように快適で魅力的な執務空間
(貝塚市役所で働きたいという優秀な人材の確保) 等

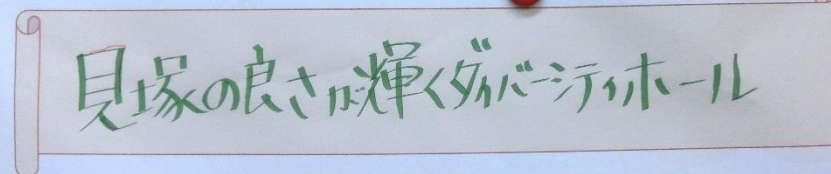


Cグループ

新庁舎整備に向けて、市民ワークショップからの提案

新庁舎整備に向けて、市民からの提案 Cグループ

提案コンセプト



① 人がやさしいハートフル庁舎

② 連帯と交流が促進する庁舎

③ 命を守り命が輝く庁舎

＜人がやさしいハートフル庁舎＞

- 子ども連れにもやさしい
- 高齢者にもやさしい
- ハンディキャップのある人にもやさしい
- 外国人にもやさしい
- 目的の場所を見つけやすい工夫をする
- 待ち時間が少ない市役所とする

＜連帯と交流が促進する庁舎＞

- 市民と市民の交流・連携
- 行政と市民の交流・連携
- 行政と行政の連携 等

＜命を守り、命が輝く庁舎＞

- 防災の拠点
 - ・防災拠点機能、避難場所機能を担うため、堅固な建物とする
 - ・ハンディキャップのある人にも対応可能な体制とする
 - ・災害時に利用可能なインフラを確保する
- 観光の拠点
 - ・他市から来た人が貝塚の歴史や特産品を学べるスペースを設置する。 等



各グループ発表と合わせて、委員の皆様からワークショップ全体を通しての感想を話していただきました。以下に、感想の一部を紹介します。

市民ワークショップ委員の皆様感想

～市民ワークショップに参加して～

- ・ 40年後に市役所がどうなっているか、確認してみたいです。
- ・ 家では、子どもと40年後について、どうするか話していました。今回の報告書を多くの市民に読んでいただけたらと思います。
- ・ 40年後を見届けたいと思います。素晴らしい市役所ができることを期待しています。
- ・ 貝塚のことを学ぶのが楽しかったです。
- ・ 知らなかった貝塚の歴史や皆様の貝塚に対する思いにふれて、もっと貝塚のことを好きになりました。
- ・ 広く市民から意見を聞いて、新庁舎整備に取り組むことは良いことだと思います。40年先も今と同じ新鮮さで、市役所に期待できるよう実現してほしいです。
- ・ 貝塚は、みんなの顔を見ることができるといいサイズのまちだと思います。今回参加して郷土愛が芽生えたように思います。
- ・ ワークショップに参加することが決まり、市役所について勉強してきたことが収穫です。グループのメンバーとの出会いにも感謝しています。

*紙面の都合上、いただいた感想の一部を掲載しています。

最後に、ファシリテーターからワークショップ全体のまとめと講評をしていただきました。



提案発表後の市民ワークショップ委員 集合写真

発行日：平成30年10月10日

発行者：貝塚市 総務市民部 総務課

お問い合わせ：【電話】072-433-7073 【ファックス】072-433-7511（代表）

